

## 障害者計画策定に係る関係団体へのヒアリング結果について

## 【家族会からの意見】

- ・ 手帳の判定が軽い方でもこだわりが強い方、行動面で困難を抱えている方がいる。
- ・ 困ってから騒ぐことがあるので、軽度でも早いうちから福祉サービスを使うよう情報を届けてあげることが必要。
- ・ 親が亡くなったあとのことが一番の悩み。障害者が暮らす場所を選べるが、その環境がない状態になってしまっている。
- ・ 親亡き後に備えることも大事だが、若いうちから離れておかないと共依存して母子分離できなくなる。
- ・ 障害者を理解して受け入れてほしい。
- ・ 軍手を重ねて紙を数える、度の合わない老眼鏡をかけて箸を使うなどの活動をしたことがある。障害を体験してもらえるいい活動がと思った。
- ・ 高齢になってくると合併症が出てくる。
- ・ 縦割りの制度を超えた支援体制を整備してほしい。
- ・ 早期発見早期治療が重要。アウトリーチを重点的にする必要がある。
- ・ 地域で共に働き、共に生きる場所を作りたい。
- ・ 高次脳機能障害を正しく理解し、支援してほしい。
- ・ 症状に応じた、そのスキルを活かした働き方を生き生きとリハビリが進んで元気になる。
- ・ 保健所と保健センターの業務分担が分かりにくい。内容によってどちらへ相談するべきか、広報を工夫してほしい。
- ・ 主治医が変わってしまうとき、年齢によって小児から一般になるときなど、主治医を探すのに苦労する。
- ・ 障害福祉サービスの申請のハードルが高い。更新のための調査も負担。どちらも簡素化してほしい。
- ・ 各種相談窓口の役割をわかりやすくしてほしい。
- ・ 福祉総合相談窓口と各部署の連携を強化してほしい。
- ・ 特別支援教室の利用が原則1年となっている。継続的な支援が必要な子どもたちが支援を受けられない状況が生まれている。子ども達を教室でフォローする人員をボランティアではなく市の事業として派遣してはどうか。
- ・ 学校を卒業すると支援がとぎれてしまう。支援先を探し、つながるにも相談先が分からず苦労するケースをよく耳にする。ライフステージがかわっても支援が続くような相談場所がほしい。
- ・ 感覚過敏などの障がい配慮した避難所の確保を検討してほしい。
- ・ 災害時の避難所の情報のツイッター発信について、画像データだと重くて開けないので、テキストデータのみにしてほしい。
- ・ 親が疲弊しているケースや、親自身に特性があり働くのが困難なケースもあり、行政として手を差し伸べてほしい。

### 【当事者団体からの意見】

- ・ コロナの影響もあり、市の施設がなかなか借りられない。
- ・ 検診は無料で受けられる。見つければ無料で治療でき、治る可能性もあるということ啓蒙している。
- ・ 元気そうに見えてしまうので、病気に対する周りの理解がないとつらい。
- ・ 肝炎は、ほぼ医療行為でしか感染しないが、移るんじゃないかということで差別がある。
- ・ リモート会議、スマートフォンの活用など、便利であるが、高齢で不得意な人もいる。
- ・ 会員を増やしたいが、個人情報保護法の関係で、新規会員の開拓が困難。
- ・ デジタル過疎。パソコンやスマートフォンなどの技術に遅れてしまう。
- ・ コールセンターのように、何でも対応してくれる相談機関がほしい。
- ・ 弱者、独り者、高齢者など、全ての者が網の中に入るような政策を望む。
- ・ カードだけであるが、自分でカードを選択できなくて困る。顔認証など、カードレスの時代になってほしい。
- ・ 手話通訳の派遣依頼の申請が、電話かファクシミリでしかできない。スマートフォン、携帯メールでもできるようにしてほしい。
- ・ 手話通訳、要約筆記を団体でも利用できるようにしてほしい。
- ・ ろう者の人との交流会で要約筆記を依頼する場合には、筆記者に通訳するための手話通訳者が必要ということを理解してほしい。